

【考察】

ザリガニの飼育ケースから水が漏れているという一人の気づきが広まり、ザリガニを助けるために水漏れを止めることが子どもたちの目的となり、友達と一緒に試行錯誤しながら自分達で水漏れを解決している。

事例の全体像を子どもの姿で。下部に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目、46の具体的な姿に向かうための有効な手立ての収集が行えるように、この事例で見られた学びと関連が深い46の具体的な姿の観点別に、その学びに至った要因（教師の援助、環境の構成、子どもの姿、友達の存在など）を記述するため、ここでは環境の構成や教師の援助は入れない。

この事例で見られた学びと関連が深い幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目、46の具体的な姿の観点別（協働性①、自立心③など）に、どのような教師の援助や環境の構成、資質・能力の発揮、他児とのかかわりがあったことで、どのような学びの姿に至ったのかを解説する。（本事例では、本校園の導き出した資質・能力の観点別《人とものごとをすすめるなど》に解説している）

罫線で区切り、罫線は非表示（ここでは区切っていることが分かりやすいように表示している）

◆「人とものごとをすすめる（協同性④）」の観点から

Dの突き止めた水漏れの原因を他児に広げられるように、教師はDに気づきを話すよう問いかけた。そのことで他児も飼育ケースが水漏れをしていることとその原因を共有することができた。子どもたちにとって大切なザリガニを助けたいという思いから、穴を塞ぐことが必然性をもった共通の目的となり、そのために考えを出し合って試行錯誤する姿へとつながった。

◆「自分に満足する（自立心③）」の観点から

ザリガニを助けるために飼育ケースの穴を塞ごうと、友達と考えを出し合って破片を見つけてつける方法や布ガムテープを貼って塞ぐ方法を行ったことで、友達と水を止められた喜びを感じた。しかし、教師が飼育ケースを置く位置を尋ねて高さのあるテーブルの上に飼育ケースを置くことになったことで、飼育ケース内の水の動きを見ること以外の飼育ケースの外への水漏れを視覚的に確かめる方法に気づき、まだ水漏れを止めることができていなかったことに気付いた。そのことからさらに観察や試行錯誤が生まれ、ようやく水漏れを止められた満足感につながった。その過程では、子ども達だけでは水漏れの原因やそれを止める方法を考え出せない際に、教師が原因や方法を尋ねて新たに考えるきっかけを作ったり、隙間なく貼る方法を行った後に結果を尋ねて水が止められたか全員で確かめるきっかけを作ったりした。

◆「現象（思考力の芽生え⑤）」の観点から

Dが水漏れの原因を見極められるように、教師は視線を変えて見る姿を見せたことで、Dはその原因を水の動きから突き止めた。穴を塞いで水漏れを止める方法をいろいろに考え、試し、上手くいかないことでさらに原因を探り、方法を考えることにつながった。その過程で教師が、テープを貼ったにもかかわらず水が漏れているのか尋ねたことで、より詳しく観察することになり、テープでできたトンネル状の隙間からさえも水が漏れていることに気付いた。

このように、諦めずに水漏れを止めようと思えたのは、これまで育ててきたザリガニを大切に思う気持ちと、それを助けたいという思いであると言える。

2) 神戸大学附属幼稚園の事例について

本園の事例については、前述したとおり、本調査研究と研究開発学校指定研究を同時に行っている関係上、研究開発学校指定研究による『初等教育要領』の開発によって見出した資質・能力によって事実を分析し、事例の資質・能力欄等に記している。具体的には次に示すとおりである。尚、これら資質・能力についての詳細は本園研究紀要 37 を参照されたい。

○ 社会的資質・能力	自分の生き方	自ら決める・選ぶ
		自分に満足する
		気持ちをコントロールする
		よりよい自分に向かう
	人とのつながり	他者という喜びを感じる
		他者のことを知る
		自分のことを伝える
		他者のことを考えて行動する
		他者を賞賛する
		人と協力・共同する
人とものごとをすすめる		

☆ 汎用的資質・能力	論理的思考力	比較する
		関連付ける
		総合する
		再構成する
		推論する
		論点を抽出する
	メタ認知力	批判的に考える
		自分を客観的に把握する
	問題解決力	問題を認識する
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する 実行し、その結果をもとに判断をくだす

□ 固有的資質・能力	健全なからだ	精神的安定
		安全
		健康
		運動
	自然との共生	自然環境
		生き物・いのち
	ものと現象	事物
		現象
	感動の表現	造形
		音楽
		文芸
		身体・総合
	文字とことば	語彙・語句
		言い方・伝え方
		ひらがな・かたかな
		ことばの使い方・つなげ方
	数とかたち	かたち
		数・量
		空間
	豊かなくらし	食
生活習慣		
道具		
伝統行事		
住		
財		
世の中のしくみ	公共施設	
	メディア	
	資源	

本研究においては、「学び」と「考察」の欄に、本園の資質・能力に加えて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目名と46の具体的な姿の番号を併記し、対応が分かるようにしている。事例中に示されている10項目名の後ろの丸囲み数字は、各項目の46の具体的な姿の番号であり、その対応を一覧表に示す。合わせて、10項目46の具体的な姿と本園の10視点カリキュラムの5歳修了時のねらいとの関連を示す。

健康な心と体

幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かしながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	安定感や解放感を持ちつつ、心と体を十分に動かしながら充実感や満足感を持って環境に関わり行動するようになる。	【健全なからだ】精神的安定 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】自分に満足する
②	全身を使って活動することを繰り返す中で、体を動かす様々な活動に目標を持って立ち向かったり、困難にたまたすいても気持ちを切り替えて自分なりに乗り越えようとしたりして根気強くやり抜くことで活動意欲を満足させ、自ら体を動かすようになる。	【健全なからだ】運動 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】気持ちをコントロールする 【自分の生き方】自分に満足する
③	適切な活動を選び、体を動かす気持ちよさや自ら体を動かそうとする意欲を持ち、いろいろな場面に応じて体の諸部位を十分に動かし進んで運動するようになる。	【健全なからだ】安全 【健全なからだ】運動 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ
④	様々な機会を通して食べ物への興味や関心を持ち、皆で食べると美味しく、楽しいという経験を積み重ね、和やかな雰囲気の中で話し合ったり打ち解けたりして親しく進んで食べるようになる。	【豊かなくらし】食 【人とのつながり】他者という喜びを感じる
⑤	健康な生活に関わりの深い人々に接したり、社会の情報を取り入れたりなどして、自分の健康に対する関心を高め、体を大切にすることを進んで行い、健康な生活リズムを身に付けるようになる。	【世の中のしくみ】公共施設 【世の中のしくみ】メディア 【健全なからだ】健康
⑥	遊びや生活を通して安全についての構えを身に付け、危険な場所、危険な遊び方、災害時などの緊急時の適切な行動の仕方が分かり、安全に気を配り状況に応じて安全な行動がとれるようになる。	【健全なからだ】安全 【数とかたち】空間
⑦	衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性が分かり、自分の力で行うために思い巡らしたり判断しようとしたり工夫したりなどして意欲や自信を持って自分でできるようになる。	【健全なからだ】健康 【豊かなくらし】生活習慣 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】自分に満足する 【豊かなくらし】住
⑧	幼稚園における生活の仕方を身に付け、集団での生活や場の使い方などの状況を予測して準備し片付けたりなどして、自分たちの生活に必要な行動に見通しを持って自立的に取り組むようになる。	【豊かなくらし】公共施設 【豊かなくらし】住 【豊かなくらし】生活習慣

自立心

身近な環境に主体的に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らしなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動するようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	先生や友達と共に生活をつくり出す喜びを見出し、自分の力で行うために思い巡らしなどして自分でしなければならないことを自覚して行うようになる。	【人とのつながり】他者という喜びを感じる 【人とのつながり】人とものごとをすすめる 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】よりよい自分に向かう
②	自己を発揮し活動を楽しむ中で先生や友達に認められる体験を重ねることを通して、自分のことは自分で考えて行い、自分でできないことは実現できるように工夫したり、先生や友達の助けを借りたりしてくじけずに自分でやり抜くようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】自分に満足する 【人とのつながり】人と協力・共同する 【人とのつながり】人とものごとをすすめる 【自分の生き方】気持ちをコントロールする
③	自分から環境に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、難しいことでも自分なりに考えたり工夫したりして、諦めず自分の力で解決しやり遂げ、満足感や達成感を味わい自らの生活を確立するようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】気持ちをコントロールする 【自分の生き方】自分に満足する
④	家族、友達、先生、地域の人々などと親しみ合い、幼児なりに支え合う経験を積み重ね、自分の感情や意志を表現し共感し合いながら、自分のよさや特徴に気づき自信を持って行動するようになる。	【人とのつながり】他者という喜びを感じる 【人とのつながり】他者のごとを考慮して行動する 【人とのつながり】自分のことを伝える 【人とのつながり】他者のごとを知る 【人とのつながり】他者を賞賛する 【人とのつながり】人と協力・共同する 【自分の生き方】よりよい自分に向かう 【自分の生き方】自分に満足する

協同性

友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	友達と積極的に関わり様々な出来事を共有しながら多様な感情の交流を通して、友達の異なる思いや考えなどに気付いたり、自己の存在感を感じたりしながら行動するようになる。	【人とのつながり】他者という喜びを感じる 【人とのつながり】他者のごとを知る 【人とのつながり】自分のことを伝える 【人とのつながり】人と協力・共同する 【人とのつながり】人とものごとをすすめる 【自分の生き方】自分に満足する

②	幼児同士の関わりが深まる中で互いの思いや考えに気付き、分かるように伝えたり、相手の気持ちを理解して自分の思いの表し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりなどしながら互いに関心を寄せ、分かり合えるようになる。	【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【人とのつながり】 他者のことを考えて行動する 【人とのつながり】 他者を賞賛する 【文字とことば】 言い方・伝え方 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする
③	友達との関わりを通して互いの感じ方や考え方などに気付き、互いのよさが分かり、それに応じた関わりを通して、学級全体などで楽しみながら一緒に遊びを進めていくようになる。	【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 他者を賞賛する 【人とのつながり】 他者のことを考えて行動する 【人とのつながり】 他者という喜びを感じる 【人とのつながり】 人とものごとをすすめる
④	人と共にいる喜びを感じ、学級皆で目的や願いを共有し志向する中で、話し合ったり、取りなしたり、皆の考え方をまとめたり、自分の役割を考えて行動したりするなどして折り合いを付け問題を解決し、実現に向け個々のよさを発揮し工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わいながらやり遂げるようになる。	【人とのつながり】 他者という喜びを感じる 【人とのつながり】 人と協力・共同する 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする 【文字とことば】 言い方・伝え方 【人とのつながり】 人とものごとをすすめる 【自分の生き方】 自分に満足する 【自分の生き方】 自ら決める・選ぶ

道徳性・規範意識の芽生え

してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。

番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	他の幼児との葛藤などの様々な体験を重ね、してよいことや悪いことが分かり、自分で考えようとする気持ちを持ち、思い巡らしたりなどして自分の考えをより適切にしながら行動するようになる。	【人とのつながり】 自分のことを伝える 【人とのつながり】 他者のことを知る 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする 【自分の生き方】 自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】 よりよい自分に向かう
②	友達などの気持ちを理解し、他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりして、思いやりを持って関わり相手の気持ちを大切に考えながら行動するようになる。	【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 他者のことを考えて行動する 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする 【自分の生き方】 自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】 よりよい自分に向かう
③	学級の皆と心地よく過ごしたり、より遊びを楽しんだりするために決まりのあることが分かり、守ったり、必要に応じて作り替えたり、新たに作ったりして考え工夫し守るようになる。	【人とのつながり】 他者という喜びを感じる 【人とのつながり】 人とものごとをすすめる
④	皆で使う物が分かり愛着を持ち、自他の要求に折り合いを付け大事に扱うようになる。	【世の中のしくみ】 公共施設 【世の中のしくみ】 資源 【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする 【豊かなくらし】 道具
⑤	自分の気持ちを調整しながら、友達と折り合いを付けたり、取りなしたり取り持ったりして周囲との関わりを深め、決まりを守るようになる。	【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【自分の生き方】 気持ちをコントロールする 【人とのつながり】 人とものごとをすすめる

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。

遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしていたりして、情報を取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。

番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	親や祖父母など家族から愛されていることに気付き、自分なりに思い巡らしたり表現したりして、家族を大切にしようとする気持ちを持つようになる。	【人とのつながり】 他者という喜びを感じる 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【人とのつながり】 他者のことを考えて行動する 【自分の生き方】 よりよい自分に向かう
②	小学生・中学生、高齢者や働く人々など自分の生活に関係の深い地域の人々との触れ合いの中で、自分から親しみの気持ちを持って接し、自分が役に立つ喜びを感じるようになる。	【世の中のしくみ】 公共施設 【人とのつながり】 他者のことを知る 【人とのつながり】 他者という喜びを感じる 【人とのつながり】 他者のことを考えて行動する
③	四季折々の地域の伝統的な行事などへの参加を通して、自分たちの住む地域のよさを感じ、地域が育ててきた文化や生活などの豊かさを感じ、一層親しみを感じるようになる。	【豊かなくらし】 伝統行事 【世の中のしくみ】 公共施設
④	目的に必要な情報を得て友達同士で伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしていたりするようになる。	【自分の生き方】 自ら決める・選ぶ 【人とのつながり】 自分のことを伝える 【世の中のしくみ】 メディア
⑤	公共施設を訪れ、それが皆の物であり自分に関係の深い場であることが分かり、大切に利用するようになる。	【世の中のしくみ】 公共施設
⑥	国旗が掲揚される様々な行事への参加や、運動会などの行事において自分で国旗を作ったりして日常生活の中で国旗に接し親しみを感じることに伴い、日本の国旗や国際理解への意識や思いが芽生えるようになる。	【豊かなくらし】 伝統行事

思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとしたり考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	身近な環境に積極的に関わり、自分から気付いたり、発見を楽しんだり、考えたり、振り返ったり、それを別の場面で活用したりするようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象
②	様々な環境に積極的に関わる中で、より深い興味を抱き、不思議に思ったことなどを探究するようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象
③	遊びが深まる中で、多様な関わりを楽しみ、予想したり、確かめたり、振り返ったりして興味や関心を深めるようになる。	【自然との共生】自ら決める・選ぶ 【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象
④	友達などの様々な考えに触れる中で、自己の思いや考えなどを自ら判断しようとしたり考え直したりなどして、新しい思いや考えを生み出す喜びを味わいながらよりよいものにするようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自分の生き方】よりよい自分に向かう 【人とのつながり】他者のことを知る 【人とのつながり】自分のことを伝える 【自分の生き方】自分に満足する 【人とのつながり】人とものごとをすすめる
⑤	物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて気付き、思い巡らし物を使いこなすようになる。	【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象 【豊かなくらし】道具
⑥	身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使うようになる。	【自然との共生】自ら決める・選ぶ 【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象 【健全なからだ】運動 【豊かなくらし】道具

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、好奇心や探究心を持って思い巡らし言葉などで表しながら、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。 身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみを持って接し、いたわり大切にする気持ちを持つようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	自然に触れて感動する体験を通して、自然の大きさや不思議さなどを感じ、好奇心や探究心を持って、思い巡らし言葉などで表しながら、科学的な視点や、自然への愛情や畏敬の念などを持つようになる。	【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象
②	同じものでも季節により変化するものがあることが分かり、変化に応じて遊びや生活を変えるようになる。	【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象 【健全なからだ】健康 【豊かなくらし】住
③	自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりして、身近な事象への関心が高まるようになる。	【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】現象 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ
④	共に遊んだり、世話をしたりなどする中で、生き物への愛着を感じ、生命の営みの不思議さや生命の尊さに気付き、生命の素晴らしさに感動して、身近な動植物を命あるものとしていたわり大切にする気持ちを持って関わるようになる。	【自然との共生】生き物・いのち

数量・図形、文字等への関心・感覚

遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	遊びや生活の中で自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに親しむ体験を重ね、必要感から数えたり、比べたり、組み合わせたりすることを通して、数量・図形等への関心・感覚が高まるようになる。	【数とかたち】数・量 【数とかたち】空間 【数とかたち】かたち
②	遊びや生活の中で標識や文字が人と人をつなぐ役割を持つことに気付き、読んだり、書いたり、使ったりすることを通して、文字等への関心・感覚が高まるようになる。	【文字とことば】ひらがな・かたかな 【世の中のしくみ】公共施設 【人とのつながり】自分のことを伝える

言葉による伝え合い

言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを伝える相手や状況に応じて分かるように話したり、話し合ったりするなどして、考えをまとめ深めるようになり、言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。	【人とのつながり】自分のことを伝える 【文字とことば】言い方・伝え方 【文字とことば】ことばの使い方・つなげ方 【人とのつながり】人とものごことをすすめる 【人とのつながり】他者のことを知る
②	イメージや思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、遊びや生活の中で文字などが果たす意味や役割、必要性が分かり、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりするようになる。	【感動の表現】文芸 【文字とことば】言い方・伝え方 【文字とことば】ひらがな・かたかな
③	絵本や物語などに親しみ、自分の未知の世界に出会うなどしながら興味を持って聞き、思い巡らすなどの楽しさに浸ることを通して、その言葉の持つ音の美しさや意味の面白さなどを友達と共有し、必要に応じて言葉による表現を楽しむようになる。	【感動の表現】文芸 【文字とことば】語彙・語句
④	幼稚園生活を展開する中で、新たな環境との出会いを通して、幼児の持っている言葉が膨らんだり、未知の言葉と出会ったりする中で、新しい言葉や表現に関心が高まり、それらの獲得に楽しさを感じるようになる。	【文字とことば】語彙・語句 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ

豊かな感性と表現

みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。		
番号	46の具体的な姿	関連する10視点カリキュラムの【視点】下位項目
①	みずみずしい感性を基に、生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、思いを膨らませ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。	【自然との共生】自然環境 【自然との共生】生き物・いのち 【ものと現象】事物 【ものと現象】現象 【感動の表現】造形 【感動の表現】音楽 【感動の表現】文芸 【感動の表現】身体・総合
②	遊びや生活の中で感じたことや考えたことなどを音や動きなどで楽しんだり、思いのままにかいたり、つくったり、演じたりなどして表現するようになり、友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくようになる。	【感動の表現】造形 【感動の表現】音楽 【感動の表現】文芸 【感動の表現】身体・総合 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ 【人とのつながり】人と協力・共同する 【人とのつながり】人とものごことをすすめる
③	自分の素朴な表現が先生や他の幼児に受け止められる経験を積み重ねながら、動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、表現する意欲が高まるようになる。	【感動の表現】造形 【感動の表現】音楽 【感動の表現】文芸 【感動の表現】身体・総合 【人とのつながり】他者という喜びを感じる 【人とのつながり】自分のことを伝える 【人とのつながり】他者のことを知る 【人とのつながり】他者を賞賛する 【自分の生き方】気持ちをコントロールする 【人とのつながり】人と協力・共同する 【人とのつながり】人とものごことをすすめる 【自分の生き方】自分に満足する 【自分の生き方】自ら決める・選ぶ

本園の事例は、3歳児の事例が12事例、4歳児の事例が10事例、5歳児の事例が16事例の合計38事例である。それらの事例は、25・26頁に示すとおりである。

3) 研究協力園の事例について

本研究においては、全国の国立大学附属幼稚園及び近隣の幼稚園等より、事例提供による研究協力を得ている。

研究協力園の事例については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目46の具体的な姿によって事実が分析されている。しかし、一部の園は、本園と同様に本園の資

質・能力によって事実を分析し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目 46 の具体的な姿との対応が分かるように併記している園もある。

また、国立大学附属幼稚園においては、地区により「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目 46 の具体的な姿を分担しての協力を得ている。分担された項目の具体的な姿が含まれた事例が提供されているため、10 項目 46 の具体的な姿それぞれについて少なくとも 1 事例は提供されており 10 項目 46 の具体的な姿が網羅されて事例が提供されている。

研究協力園は、国立大学附属幼稚園が 48 園、近隣の公立幼稚園が 29 園となっており、各園より 1 事例の提供が基本であるが、数園からは、複数の事例が提供されている。それらの事例は、27 頁から 30 頁に示すとおりである。

4) 事例の分析方法

本研究で活用している実践記録フォーマットにより、一つ一つの事例は、子供の事実を分析的に解釈して学びをとらえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目 46 の具体的な姿のどの方向に向かっているのかを明らかにしている。そして、事例毎に、10 項目 46 の具体的な姿の観点から、有効な指導方法を含めた考察を行っている。さらに、それらは各園の職員により検討されることにより、一定の客観性が担保されている。それらの考察は、10 項目 46 の具体的な姿の観点毎にまとめられているため、それらを観点毎に集積し、分析することによって「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目 46 の具体的な姿についての指導方法を明らかにできると考えた。

例えば、本園の 38 事例の中から、考察に「健康な心と体」に関する考察を次のように集積した。その際、一つの考察が複数の項目にまたがっていると判断した場合、関連する全ての項目に繰り返し集積している。例えば、事例 1 の本園のカリキュラム「自ら決める・選ぶ」の観点からの考察は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目 46 の具体的な姿に照らすと、「健康な心と体①」と「自立心③」の両方に関連があると判断した。よって「健康な心と体①」と「自立心③」の両方の項目にそれぞれ集積した。

さらに、考察の中から効果的であった環境の構成や教師の援助を抽出した。その際、下表中の事例 11 のように、考察だけで、効果的な環境の構成や教師の援助を抽出することができないものについては無理に抽出することは差し控えた。そして、「指導方法の整理」の欄を設けて、抽出した環境の構成や教師の援助を整理した。

本園事例の考察の中から「健康な心と体」に関する考察を集積し、指導方法の整理を示した一覧表を具体例として次に示す。

番号	学年	タイトル	考 察	指導方法の整理
1	3 歳 4 月	プラフォーミングを 2 つ運びたい	◆「自ら決める・選ぶ」(健康な心と体①, 自立心③)の観点から 教師は、子どもたちが遊んでみたいと思えるように、保育室に入った時に子どもの目につく場所に遊びかけの状態ですらフォーミングを置いておいた。Kは、置いてあるプラフォーミングの横に並べたいと思って連んでいる。	やってみようと思えるように、遊び出しの状況を作っておく。
2	3 歳 5 月	お友達がいるからお母さんと離れてみようかな	◆「精神的安定」(健康な心と体①)の観点から Kは、前日(5月10日)の朝に、母親が自分の知らない間に帰ってしまったことで不安を感じながら登園した。教師は、Kのよりどころになるように、目線を下げたり手を差し出したりして話をしたり、前日にKが教師と砂場の穴掘りをしていたので、したいと思えるだろうと思い、誘ったりした。その働きかけによって、Kは、教師と遊ぼうと思い、母親から離れようと思った。そして、Kは気持ちほぐれていった。	母親から離れようと思えるように、目線を下げたり、手を差し出したりして話を聞いたり、自分が受け入れてもらっていることや、一緒にいて心地いい友達がいることを感じられ

			<p>また、Kは降園時に門まで一緒に手を繋いで歩く友達を決める時に、Sから誘われたことを嬉しく思っている。そのことがきっかけで、次の日には三輪車に乗って遊んでいたSの隣で、同じ遊びを始めた。休み明けの日(5月16日)にKが硬い表情で登園していたので、教師は、Sと四輪の乗り物に乗って楽しかったことを思い出し、今日も遊びたいと思い、安心して母親と離れられるきっかけにしたいと考え、Sが今している遊びを伝えた。そのことでKは、母親と離れたくない気持ちもあるが、Sがいるので、母親から離れようと思えた。自分を受け入れてもらって嬉しい、一緒にいて心地いいと思える友達がいることも、Kが母親と離れられた要因の一つであったと考える。</p> <p>さらに、Kの保護者と話をすることによって、Kが遊ばないと言う「お友達」にSは含まれていないことが分かり、援助の方向性が明確になった。</p>	<p>るように、教師が誘ったり、友達が遊んでいる様子を伝えたりする。</p>
8	3歳 10月	行くよ、ジャンプ!	<p>◆「運動」(健康な心と体③)の観点から</p> <p>子ども達はジャンプ山(ゲームボックス)で遊びながら、手で身体を引き寄せたり膝をかけたりして上ったり、飛び降りたり、身体を屈めて穴をくぐったりしている。それを2段にして高さを変えながら、高い所から飛び降りる経験や、穴の中で身体をひねったりバランスを取ったりして足から出る経験をしている。また、Hの提案をきっかけに、長くつないだり凹凸になるように配置したりすることで、上り下りの回数が増えたり跳び移ったりする様々な動きが出てきている。教師が様々な動きができるように穴をくぐることを提案したこともこれにつながっている。教師が降りる先の芝生に、3色のフープを縦一列に置いたことで、何色にしようか着地点を決めて飛び降りたり、遠くのフープまで飛び降りようとして飛び降りたりしている。その際、教師は安心して飛び降りられるよう安全を見守り、個々の必要に応じて、手を添えたり講えたりしている。どの動きも、組んだゲームボックスの形や友達のしている姿を見てやってみようと思う「自ら決める・選ぶ」の力に支えられている。</p>	<p>やってみたい気持ちや様々な動きが誘発されるように、遊具の高さや長さを変えて凹凸に遊具を配置したり、色の違うフープなど、距離の目標を決められるものを並べて置いたりする。</p> <p>安心して取り組めるように安全を見守り、一人一人の必要に応じて手を添えたりほめたりする。</p>
8	3歳 10月	行くよ、ジャンプ!	<p>◆「自ら決める・選ぶ」(健康な心と体③)の観点から</p> <p>HはSと一緒に一つのジャンプ山上り下りをして遊んでいたが、もう一つのジャンプ山もつなげたいと思い教師に伝えた。教師と一緒につなげた長くなったジャンプ山の形を見て、早くしたいと思っている。AKNRTは、HSが遊んでいる姿や長くなったジャンプ山を見て、自分もしてみたいと思ってやってきている。いつもと違い新しく上ってみたいと思う形にゲームボックスを組むことや友達が遊んでいる姿に気付く場所に置くことが学びを支えている。また、したいと思った時、どこから遊び始めるといいか分かりやすいことで、いつでも誰でも並べば遊びに入れる作りになっていることも要因であると考え。</p> <p>また、Aは自分もしたいと思って一度は上り始めたが、後ろから友達がくっついてきたことで怖いやと感じ、降りてその後は友達が上ったり飛び降りたり跳び移ったりするのを見て楽しんでいる。今回援助できていないが、Aがしたいという気持ちをもって遊び続けられるよう、場を作ったり、傍で見守ったり励ましたりして支えることも大事だと考える。</p>	<p>やってみたいと思っていても遊びに入ったり取り組めるように、遊んでいる姿が他児から見える場所に、導線の色や高さなどに配慮し、様々な形に遊具を組み合わせて置いておく。</p> <p>したいという気持ちをもって繰り返し挑戦しようと思えるように、傍で見守ったり励ましたりする。</p>
8	3歳 10月	行くよ、ジャンプ!	<p>◆「自分に満足する」(健康な心と体②)の観点から</p> <p>Rは、始め、教師に手を持ってもらい少し遠くの黄色のフープに飛び降りられて喜んでい。その後、ジャンプ山の凹んでいる部分を跳び移ってみようと思い、やってみてきたことや教師にすごいと言われたことで、さらに一人で飛び降りることもでき、嬉しく思っている。教師は、子どもがやってみようと思った時に、その子の気持ちや能力に応じて、手を添えたり見守ったり講えたりしている。</p>	<p>やってみようという気持ちを支えられるように、やってみようと思ったときに、その気持ちや能力に応じて、手を添えたり見守ったりする。そして、頑張った満足感が味わえるように、挑戦したことをほめる。</p>
8	3歳 10月	行くよ、ジャンプ!	<p>◆「安全」(健康な心と体⑥)の観点から</p> <p>Hは二つのジャンプ山の入り口を合わせて並べたいと考えた。そこで教師は、そのように置くと上り口やその後に進む方向が分からなくなり混乱し、高い所で押し合いになることや、様々な方向から飛び降り、安全を教師が見切れないことを予測し、Hに危なくないように置きたいことを伝えた。Hは教師の危ないという言葉から危なくない方がいいと感じ、受け入れているが、振り返ると、教師二人でついて、実際にHの考えのとおり一度置いてみて試し、実際に危ないかもと感じてから動かすことも援助として考えられる。</p>	<p>安全な遊び方を選ぶように、危険な状況になることを予測したり、安全を確保しつつ実際に試して危険な状況になることを体験したりし、安全に遊ぶための置き方を子どもと一緒に考えたりする。</p>
11	3歳 1月	乗り物をつなげて遊ぼう	<p>◆「運動」(健康な心と体③)の観点から</p> <p>つなげた乗り物を速く進めようと考えた友達が、一緒に三輪車を引っ張ったことで、Sが自分一人でこく速くよりも速く進む感覚を楽しむことに至っている。</p>	
13	4歳 6月	警察官になって泥棒を捕まえよう	<p>◆「運動」(健康な心と体③)の観点から</p> <p>泥棒を捕まえたいという思いを支えられ、子どもたちは急な方向転換をしている。その過程で教師は、自然と急な方向転換が行われるように、追われている自らがその動きを行っている。また、子どもからその動きが出た際にはそれを具体的に言葉にして意識できるようにしている。</p>	<p>様々な調整しながら身体を動かせるように、教師自らが様々な動きをして逃げる。また、子どもがその動きのよさを意識できるように、具体的に言葉にしてほめる。</p>
13	4歳 6月	警察官になって泥棒を捕まえよう	<p>◆「自ら決める・選ぶ」(健康な心と体②、自立心②)の観点から</p> <p>泥棒を捕まえたいという思いを強くもてるように、教師は泥棒になりきって、警察官である子どもたちを挑発する言葉をかけたり、捕まえられそうだったことを言葉にしたり、捕まえたい思いをもち続けられるように、特に気持ちが続かない子どもがいる場合には、Aにしたように、気持ちが切れそうなタイミングを逃さず泥棒になりきって挑発する言葉をかけたりしている。また、Aが諦めずに追いかけて続けた際には、その頑張り具体的に気付いてより意識できるように諦めずに追いかけてようとする姿勢を言葉にして褒めたりしている。</p> <p>また、どの観点においても言えることとして、警察官になって泥棒を捕まえたいという思いをもって遊びに取り組んでいることは、大きな目的として学びを支えている。鬼ごっことしてすすんでいく中で、警察官と泥棒というイメージや関係性を維持させたのは、教師が終始泥棒になりきって言葉をかけ、動き続けていた「身体・総合」の観点からの動きかけが大きな要因の一つであったと考える。</p>	<p>鬼ごっこで捕まえたいという思いを強くもてるように、また、その思いをもち続けられるように、挑発する言葉をかけたり、捕まえられそうだったことを言葉にしたりして雰囲気盛り上げる。</p> <p>諦めずに追いかけて続けた頑張り意識できるように、その姿勢を言葉にしてほめる。</p>
13	4歳 6月	警察官になって泥棒を捕まえよう	<p>◆「自分に満足する」(健康な心と体②、自立心③)の観点から</p> <p>Rが教師の急な方向転換についていく際にも、Tが前から捕まえようとした際にも、教師はその動きのよさを泥棒になって困って言葉にすることで、自分の動きのよさやもう少しで捕まえられそうであったことを喜びることにつながっている。また、簡単に捕まるのではなく、捕まえられはしないがあと一歩という惜しい状況を作ることで、手ゆえを感じながら取り組み、捕まえた際の大きな喜びに至ることができた。教師は捕まえた後に振り返るようにTやAのよさや頑張り、泥棒の立場に立って悔しがりがなが具体的な言葉にしていくことが、それぞれの満足につながっている。</p>	<p>動きのよさを感じられるように、教師が捕まった悔しさや動きのよさを言葉にする。</p> <p>もう少しで捕まえられそうな手ゆえを感じながら取り組めるように、捕まえられはしないがあと一歩という惜しい状況を作る。捕まえた喜びが感じられるように、悔しがりがなが、振り返るようによさや</p>

				頑張りや、具体的な言葉にして伝える。
14	4歳 6月	泥に入って遊ぼう	◆「運動」(健康な心と体③)の観点から この観点においても、泥に入り、その中でからだを動かす状況にあることが重要であり、その状況に向けての泥への興味付け、触ったり入ったりしてよいことを伝えることなどが、根本的な状況を作り出している。	泥に入り、その中でからだを動かす状況を作れるように、誘ったり友達の様子を見せたり、友達の感想を聞いたりして、興味をもたせたりきっかけを作ったりする。
14	4歳 6月	泥に入って遊ぼう	◆「生活習慣」(健康な心と体⑦)の観点から Mが汚れないようにスポンの裾を上げていたことから、教師はスポンを脱ぐことを提案した。Mは、その際には脱ぐことに必要感を感じず、脱がなかった。遊びの中で、実際にスポンが汚れたことで、それを嫌に思い、スポンを脱ぐ必要性を感じている。教師は、Mが必要を感じるタイミングで事前に脱いでおくことを再度言葉にしている。それを聞いてMは、次はそうすることを言葉にしている。そのような必要感を感じるに至った根本的な状況作りとして、教師は、泥遊びの始めから服を脱ぐことを提案していない。子どもたちが遊んでみて、これは服が汚れそうだと、汚したくないという思いを抱いて考えることを大切にしたいと考えている。一度目の提案で、Mが必要感を感じていないと解釈した際に、無理に説得することなく、本児が必要を感じるまで待ったことも、この学びに至った要因の一つだと考える。	汚れないようにするために脱いでおく必要性を感じられるように、これは服が汚れそうだと、汚したくないという思いを抱いて考えることを大切にし、子どもが必要を感じるまで待ち、必要を感じたタイミングで気持ちを受け止めどうすればよい言葉にする。
19	4歳 10月	板の上、歩けるかな?	◆「運動」(健康な心と体③)の観点から AとRは、教師が板の上を歩いたり、嬉しそうに声をあげたりしている姿を見て、自分もやってみようと思った。Aは、水の上で高さがあり不安定に見える板の上を歩くことにスリルを感じながら、歩くことを楽しんでいる。Rは、落ちないようにバランスを取りながら足を置く場所をよく見て歩いている。子どもたちが様々な動きや感覚を経験できるように、教師が興味を持って取り組む姿を見せることが大切であると考え。	様々な動きや感覚を経験できるように、教師が興味を持って取り組む姿を見せる。
24	5歳 6月	友達と戦いショーをして、お客さんに観てもらいたい	◆「安全」(健康な心と体⑥)の観点から 子ども達は、戦いはしたいが、お互いに身体が当たらないようにしたいと思っている。教師は、お互いの距離を考えて動いていることを自覚できるよう、当たらないように考えていることを言葉にした。また、Hは、少し高さがあり、限定されたスペースであるステーション上で動く中で、端まで行き、そのまま跳び出して地面に落ちたことで、端に行き過ぎると危ないと振り返った。そして、今度は落ちないようにしたいという気持ちがうまれ、端を意識して見ながら動いたり、危なくない場所を考えて真ん中に移動したりしている。教師は、自分で危なくない方法を考えたことがよかったと思えるように考えていることに共感したり、危なくない場所を選んで動けるように、気を付けるよう、言葉をかけた。	お互いの距離を考えて動いていることを自覚できるように、考えていることを言葉にする。 危なくない場所を選んで動いたり、自分で危なくない方法を考えたりしようとするように、考えていることに共感する。
34	5歳 10月	馬跳びができるようになりたい!	◆「自分に満足する」(健康な心と体②、自立心②、協同性①)の観点から AMYは、馬跳びができるようになりたい気持ちをもって、教師が、諦めずに挑戦しようと思えるように練習に付き合い、応援することで、AMYは続けて挑戦していた。また、手に体重をかけて跳び越す感覚や跳び越す勢いを味わえるように補助をするという「運動」の観点から支えたり、自分で挑戦する際にも安心して挑戦できるように傍にいたりすることで、馬を跳び越すための感覚をつかみ、馬跳びができるようになった。その際、教師が馬跳びができたことを喜べるように、褒めたり何度も練習して頑張ってきたことを伝えたりした。そして、Yは何度も練習し、難しかった馬跳びができるようになったと感じて満足している。Aは馬跳びができなかった時の嫌だった気持ちを振り返りながら、できるようになって嬉しくなったことを感じ、満足している。Mは、難しかった馬跳びができるようになったことを感じ、満足している。 Tは友達が馬跳びに挑戦できるように馬になってあげようと思った。教師は、友達のためにTが馬になり、ずっと練習に付き合ってくれていることをAMYが感じられるように、伝えていった。そのことで、Yは、Tが馬になってくれたおかげで馬跳びができるようになったと感じ、感謝している。そして、友達が喜んでくれていることを嬉しいと感じ、Tは馬になる自分のよさを感じている。また、友達が馬跳びができるようになるたびに、教師がTが練習に付き合ってくれていることを伝えることで、もっとしよう、次もしようという気持ちになり、馬になることが辛くなっている時にもやめずに続けている。Tが馬になることで、AMYは跳べるようになり、それが練習に付き合ってくれたTのおかげでもあることを教師は伝えた。そのことで、Tは自分が馬になったことで、友達がたくさん馬跳びをできるようになったことを嬉しく思っている。	諦めずに挑戦しようと思えるように、練習に付き合い、応援したり、コツや感覚を感じられるよう補助をしたり、安心できるように傍にいたりする。 何度も練習し、難しかったことができるようになったと満足感を味わえるように、できたことをほめたり何度も練習して頑張ってきたことを伝えたりする。 練習に付き合ってくれる友達のよさを感じられるように、練習に付き合ってくれていることや練習に付き合ってくれた友達のおかげでもあることを伝える。
34	5歳 10月	馬跳びができるようになりたい!	◆「運動」(健康な心と体③)の観点から AMY共に、手に体重をかけて跳び越す感覚や跳び越す勢いをつかめずじまいにいた。そのため、教師は、手に体重をかけて跳び越す感覚や跳び越す勢いを感じつつ、前に落ちない安心感を感じられるように、背中を押しながら、胸を支える補助をした。何度も繰り返し補助をすることで、Yは感覚をつかみ、また跳び越すために助走をして勢いをつけたりよいと見え、馬を跳び越すことができた。Aは、補助をしてもらうことに加え、Yに応援してもらうこともあり、勇気を出すことができ、手をついて跳び越す感覚や跳び越す勢いをつかみ、また膝を曲げて勢いをつけたりよいと見え、馬を跳び越すことができた。Mは、繰り返し補助をしてもらうことで、手をついて跳び越す感覚や跳び越す勢いをつかみ、馬を跳び越すことができた。 また、教師が応援し、練習に付き合う、「自ら決める・選ぶ」の観点からの支えをしてきたことで、AMYはそれぞれ、馬跳びができるようになりたいという気持ちを持ち続け、繰り返ししようとする姿につながり、馬を跳び越せるような身体の動かし方や感覚をつかむことができたと考え。	できるようになりたいという気持ちを持ち続け、繰り返し取り組むことで、身体の動かし方や感覚をつかめるように、必要に応じて繰り返し補助をしながらか、応援したり、練習に付き合ったりする。

表中の「指導方法の整理」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目46の具体的な姿毎に、さらに学年毎に集約し、本研究により収集した事例から明らかになった指導方法を31頁以降の「幼児期に育みたい資質・能力の発揮、伸長を支える指導方法」に示す。